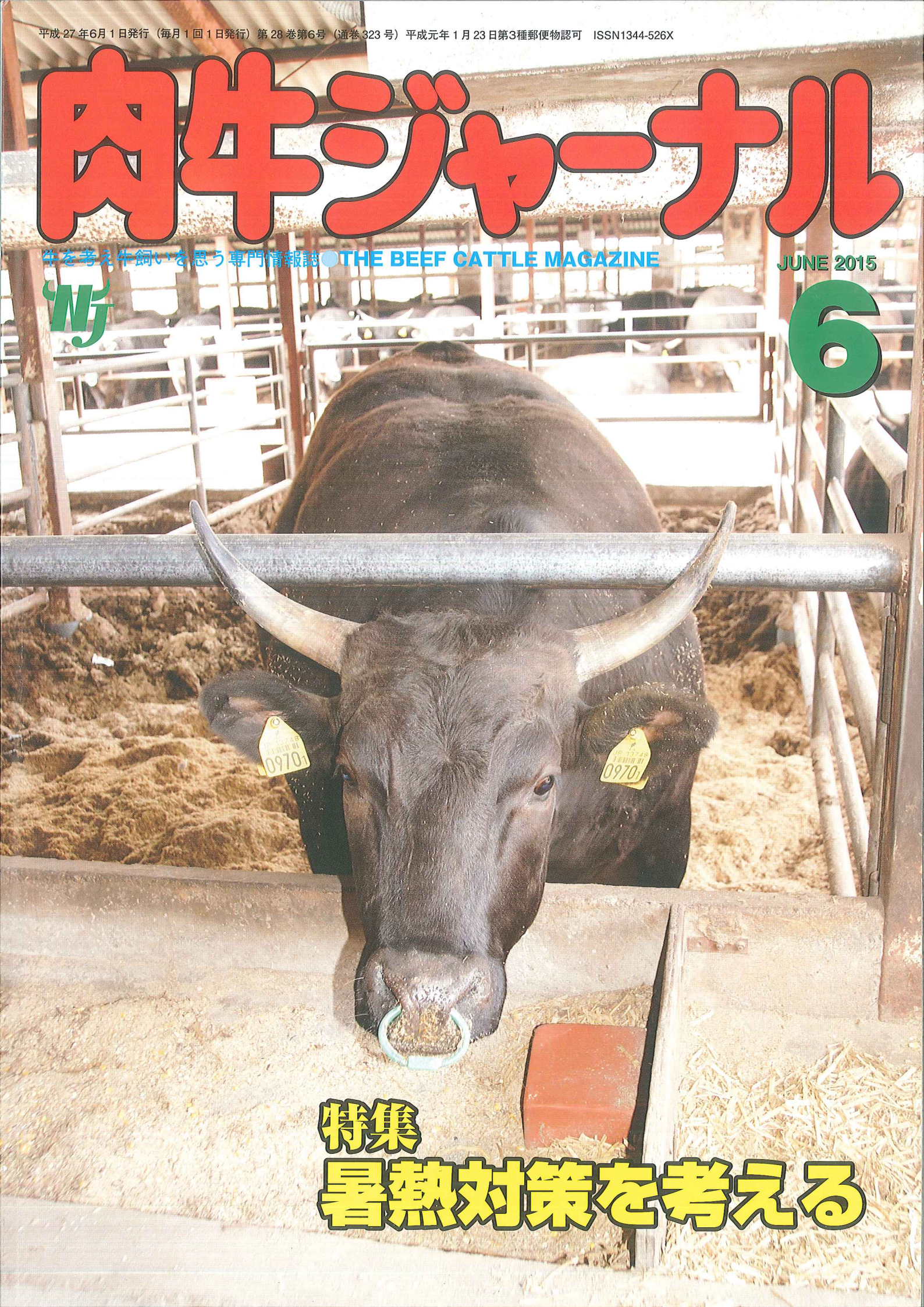
平成27年6月1日発行（毎月1回1日発行）第28巻第6号（通巻323号）平成元年1月23日第3種郵便物認可　ISSN1344-526X

肉牛ジャーナル

牛を考え牛飼いを思う専門情報誌●THE BEEF CATTLE MAGAZINE

JUNE 2015
6



特集
暑熱対策を考える

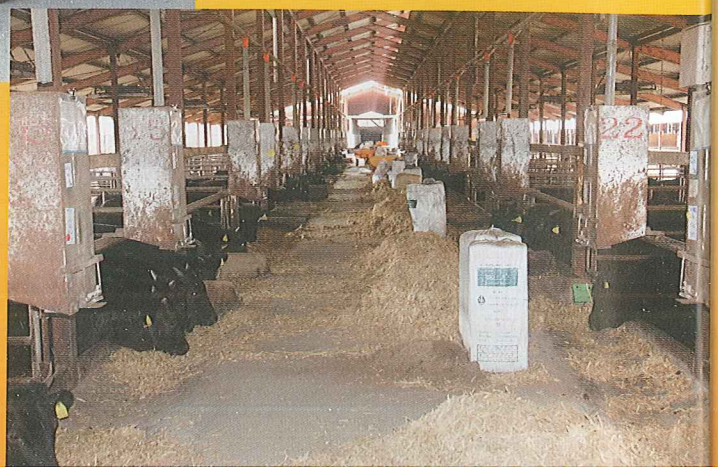
実証展示を通して農家に貢献

茨城県畜連 肉用牛研修農場

畜産における昨今の技術の進歩は目覚ましいものがあるが、そうした新しい技術をいきなり農家で実施するのは大きなリスクが伴う。そこで、一旦それぞれの直営農場等で試験を行い、新しい技術を農家に紹介しても問題ないか確認した上で農家に普及している畜産関係団体も少なくない。今回紹介する茨城県畜産農業協同組合連合（古平力代表理事会長：以下、茨城県畜連）の直営農場である肉用牛研修農場（以下、研修農場）もそうした農場の一つだ。

研修農場では黒毛和種肥育牛約700頭が常時飼養されており、これを茨城県畜連の職員が通常３～４名で管理している。ここでは配合飼料の開発や添加剤・サプリメントといった生産資材などの試験、若い種雄牛産子の導入・肥育といった飼養管理技術の開発や実証展示を行い、会員農家に普及・啓蒙を推進している。また研修農場の肥育技術には定評があり、様々な試験を行っているにもかかわらず、平成26年度の肥育成績は４等級率以上が88%という好成績を修めている。そして、このような高い肥育技術を誇る茨城県畜連での試験や実証展示のなかで効果が認められたものだけを農家へ普及させることで、会員農家の経営の向上に貢献している。

研修農場のスタッフ・関係者の皆さん



牛舎内の様子。乱雑にしているのではなく、作業しやすいようにあえて通路にBIOバガス（バイオ科学（株））と稲ワラを置いている

夏季は噴霧器による暑熱対策を行っている。３つの穴からファンに向かって霧を吹き出すと、それがファンの風に乗って牛房全体に行き渡る。研修農場における暑熱対策については20頁より

リラックスしている肥育牛。研修農場の牛舎は平成５年完成とやや古く、そのため牛房も3.1m×6.4mと小さめ。この写真は１マス４頭だが、最近は牛が大型化してきたのと素牛価格の高騰のため一部は１マス３頭になっている

導入から３ヵ月後の肥育牛

導入からちょうど１年の肥育牛

１ヵ月後に出荷予定の肥育牛（花国安福－北平安－平茂勝）

４月24日に東京市場で行われた第42回「名人会」肉用牛枝肉研究会に研修農場が出品した枝肉（花国安福－勝忠平－北国７の８）。去勢、28.9ヵ月齢、枝重554kg、ロース芯69cm²、バラ厚8.5cm、脂肪厚3.2cm、歩留基準値74.1、BMSNo.10で優良賞を受賞